

令第2条第2項	作成(改訂)日
地盤面の算定	令和4年3月1日

地盤面の算定(空堀・ドライエリア)

空堀が存在する場合の地盤面の設定の取扱い。

次に掲げるすべての基準に該当する空堀の場合は、空堀と地面に接する位置(図中A)を建築物本体と周囲の地盤面の接する位置とする。なお、ここでいう「空堀」とは通風・採光のためのものや緊急時の通路等(窓先空地および屋外通路を含む)のために設けるものをいい、日常、人や車等の通行があるもの()は該当しない。(該当しない場合の建築物本体と周囲の地面の接する位置は図中Bとする)

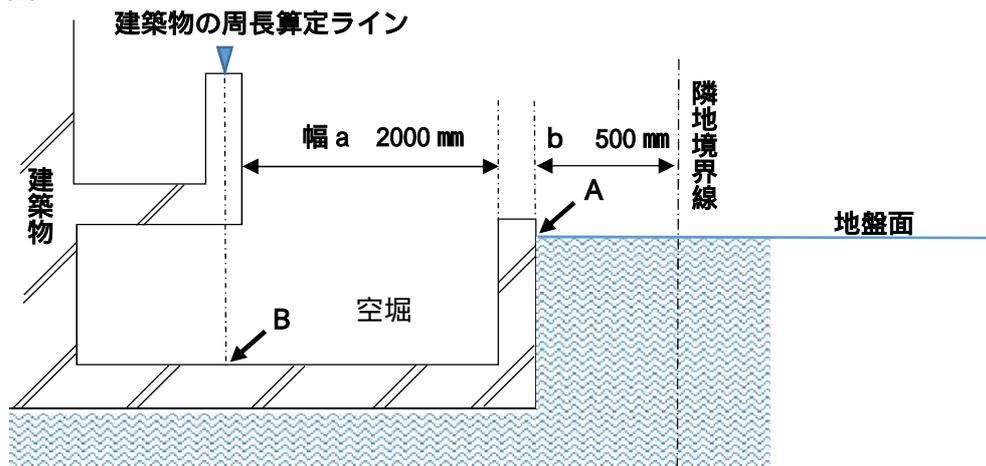
空堀と建築物は一体の構造であること。

空堀は、現況地盤面から掘り込んだものであること。

空堀の幅 a は 2 m 以下であること。(幅は、建築物本体の各部分から周壁の対向部までの水平距離とする。)

空堀から隣地境界線(道路境界線・建物間)までの水平距離 b は 500 mm 以上あること。

参考図 .



() 日常、人や車等の通行があるものとは、共同住宅の主要な出入口、店舗の出入口、自動車および自転車の車路等をいう。

技術的助言など	
参考文献など	